

令和5年7月伊勢原市教育委員会定例会議事録

- 1 開催日時
令和5年7月28日（金）午前9時30分から午前11時44分まで
- 2 開催場所
伊勢原市立図書館AVホール
- 3 教育長及び委員
教育長 山口 賢人
委員（教育長職務代理者） 菅原 順子
委員 渡辺 正美
委員 福田 雅宏
委員 濱田 光子
- 4 説明のために出席した職員等
教育部長 大山 剛
学校教育担当部長 櫻井 綾子
歴史文化推進担当部長
（兼）歴史文化担当課長 立花 実
参事（兼）教育総務課長 熊澤 信一
参事（兼）学校教育課長 守屋 康弘
教育指導課長 嶋本 信之
教育センター所長 田中 美和
社会教育課長 杉山 麻里
図書館・子ども科学館長 林 かをり
教育指導課教育指導係長 小菅 聡子
教育指導課主任主事 雫 大輔
- 5 会議書記
教育総務課係長 窪田 暁大
- 6 傍聴人
13人
- 7 議事日程
日程第1 前回議事録の承認
日程第2 教育長報告
日程第3 議案第30号 適応指導教室の位置の変更に係る基本的事項の決定について

- 日程第 4 議案第 3 1 号 令和 6 年度伊勢原市立小学校使用教科用図書の採
択について
- 日程第 5 議案第 3 2 号 令和 6 年度伊勢原市立中学校使用教科用図書
の採択について
- 日程第 6 議案第 3 3 号 令和 6 年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級
において使用する教科用図書の採択について
- その他

----- ○ -----
午前9時30分 開会

- 教育長【山口賢人】 おはようございます。
定刻となりましたので、ただいまから令和5年7月教育委員会定例会を開催いたします。
まず、教育総務課長より資料の確認をお願いいたします。
○参事（兼）教育総務課長【熊澤信一】 （資料確認）
○教育長【山口賢人】 皆さん、よろしいでしょうか。
○教育長及び委員全員 （了承）

----- ○ -----
日程第1 前回議事録の承認

- 教育長【山口賢人】 それでは、日程第1「前回議事録の承認」について、
お願いします。
○教育長及び委員全員 承認

----- ○ -----
日程第2 教育長報告

- 教育長【山口賢人】 続きまして、日程第2「教育長報告」になります。本日は4件ございます。
まず1件目、市議会6月定例会教育委員会関連一般質問答弁の概要について、所管の部長から報告をお願いします。
○教育部長【大山剛】 それでは私から、総括的に御説明させていただきます。事前にお配りさせていただいておりますので、詳細については御確認いただきたいと思っております。
6月定例会では、5人の議員から一般質問をいただきまして、内容といたしましては、不登校の問題、それから給食費の公会計あるいは無償化、令和5年度から新たに取り組みますスクールロイヤー、また、新たな話題として、PTAについての御質問等をいただいております。詳細につきましては、お手元にお配りさせていただいております一般質問の概要を御覧いただきたいと思っております。
以上です。
○教育長【山口賢人】 今の報告について、何か御意見や御質問はございますでしょうか。
よろしいですか。
では2件目、文化財フェスタの開催について、3件目、令和5年度夏季休業期

間中の児童生徒指導について、4件目、第28回いせはら市展の実施結果について、以上3件について、続けて、それぞれから報告をお願いします。

○歴史文化推進担当部長（兼）歴史文化担当課長【立花実】 資料2を御覧ください。「いせはら文化財フェスタ2023」の開催について御報告いたします。

今回は、大正12年に発生しました関東大震災から100年ということで、全国で様々な催物が開催されていますけれども、伊勢原市でも歴史的資料から伊勢原の災害を紹介する展示を開催いたします。令和5年8月18日金曜日から21日月曜日まで、午前9時から午後5時、場所は中央公民館の1階展示ホールとなります。

今回の展示の狙いは、市内で活躍されております市民団体の方々に声をかけさせていただきまして、ふだん、調査やウオークといった活動をしている中で目にした市内の関東大震災の痕跡、資料などを市民の目線で取り上げていただいて、震災を身近なものとして捉え直そうというものであります。

また、市の文化財保護審議会の委員であります川島敏郎先生に、歴史講演会としまして、大山で震災後に発生しました山津波について、資料を基にお話ししていただきます。あわせて、危機管理課と連携いたしまして、せつかくの機会でありますので、近年の全国の災害の状況や災害グッズなどについても展示していただきます。さらに「富士山大噴火について備える」という講演もお願いしております。

以上です。

○教育長【山口賢人】 では3件目、お願いします。

○教育指導課長【嶋本信之】 続きまして、資料3の夏季休業期間中の児童・生徒指導について述べさせていただきます。

夏季休業を迎えるに当たり、各学校には資料3「夏季休業期間中の児童・生徒指導について」を配付いたしました。このことについて、各校には校長会を通じ、資料にありますように、学習指導、生活指導、健康・安全指導、緊急指導體制の確認、夏季休業後の児童・生徒指導等につきまして、職員への周知と児童生徒への指導を依頼いたしました。また、特に気にかかる児童・生徒に対しては、休業中にも必要に応じて電話連絡や家庭訪問等を行うとともに、休み明けにも丁寧に関わるなど、きめ細やかな指導に努めるようお願いいたしました。さらに、児童・生徒にとっても、教職員にとっても、自然や人とのふれあいの体験などの中で、自己肯定感を育み、人間力を高めるよい機会となることを踏まえ、充実した日々が送れるよう、事前の指導をお願いしたところでございます。

以上であります。

○教育長【山口賢人】 では4件目、お願いいたします。

○社会教育課長【杉山麻里】 社会教育課より「第28回いせはら市展」について御報告いたします。資料4を御覧ください。

前期は絵画・版画・彫刻部門で6月7日から6月11日まで、後期は書、写真、陶・工芸部門で6月21日から6月25日まで開催いたしました。展示点数は前期55点、後期155点、合計210点でした。

入場者数は前期617人、後期822人、合計1,439人で、前年度より92人の増となりました。今年度は審査員の方による講評や表彰式などを対面で実施することができました。

教育委員の皆様方には、お忙しいところお越しいただき、お礼申し上げます。ありがとうございました。

○教育長【山口賢人】 では、2件目から4件目についての報告、何か御意見や御質問はございますでしょうか。

福田委員、お願いします。

○委員【福田雅宏】 お願いします。資料2の先ほど特別講演会で災害グッズを展示という話が御説明の中であったかと思うんですけど、これって8月20日のみですか。

○歴史文化推進担当部長（兼）歴史文化担当課長【立花実】 期間中を通して、災害の防災用品を展示させていただきます。

○委員【福田雅宏】 この期間中？

○歴史文化推進担当部長（兼）歴史文化担当課長【立花実】 はい、期間中です。

○委員【福田雅宏】 はい、ありがとうございます。

○教育長【山口賢人】 ほかにいかがでしょうか。

はい、菅原委員、お願いします。

○委員【菅原順子】 いせはら市展について、入賞者の方々の表彰式に出席させていただきましたけれども、入賞者が40名近くいらっしゃって、かなり長時間になりました。せつかくですから、表彰されているときに、その方の受賞作品をパワーポイントなどで見ることができれば、御本人にとっても、参加者にとっても、さらに有意義ではないかなと思ったんですけども、いかがでしょうか。

○社会教育課長【杉山麻里】 そうですね。確かに表彰式の時間帯、大勢の方に来ていただいているので、時間の制限はありますが、来年度に向けて、そちらを考えて、できるかどうかの方向性を探りたいと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、ほかにないようですので、次に進みたいと思います。

----- ○ -----

日程第3 議案第30号 適応指導教室の位置の変更に係る基本的事項の決定について

○教育長【山口賢人】 日程第3、議案第30号「適応指導教室の位置の変更に係る基本的事項の決定について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【櫻井綾子】 それでは、議案書の1ページを御覧ください。

い。議案第30号につきましては、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第4号の規定により提案します。

適応指導教室は、平成6年度より大原児童館にて開設してまいりました。しかし、通室する児童・生徒が増加傾向にあり、教室が手狭になったことから、南コミュニティセンターの児童室へ移転する計画で進めてまいりました。関係各課との調整を行い、8月28日より南コミュニティセンターにて適応指導教室を開設する予定となりました。あわせて、名称をこれまでの「適応指導教室」から「教育支援教室」へと変更いたします。これは令和4年6月10日文部科学省通知不登校に関する調査研究会議報告書「今後の不登校児童生徒への学習機会と支援の在り方について」より、従来使用していた適応指導教室の呼称について、不登校児童・生徒や保護者にとって、抵抗感を減らし、親しみやすいものにするよう求められているためです。

また、「大原教室」という通称名につきましても、移転に伴い、「やまどり」という愛称に変更いたします。このことにより、伊勢原市適応指導教室設置要綱を議案書4ページにある資料のとおり改正いたします。

説明は以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

ただいまの提案説明について、御意見、御質問がございましたらお願いいたします。

よろしいですか。

では、ないようですので、採決に入らせていただきたいと思います。

日程第3、議案第30号「適応指導教室の位置の変更に係る基本的事項の決定について」、賛成の方は挙手をお願いいたします。

○教育長及び委員全員 挙手。

○教育長【山口賢人】 挙手全員。よって、本案は原案のとおり可決決定いたしました。

----- ○ -----

日程第4 議案第31号 令和6年度伊勢原市立小学校使用教科用 図書の採択について

○教育長【山口賢人】 続きまして、日程第4、議案第31号「令和6年度伊勢原市立小学校使用教科用図書の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【櫻井綾子】 議案書の20ページを御覧ください。本議案第31号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条、同法施行令第15条の規定に基づく令和6年度伊勢原市立小学校において使用する教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

提案理由といたしましては、令和6年度伊勢原市立小学校において使用する教科用図書を採択する必要があるためでございます。

現在、小学校で使用しております教科用図書につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律及び同法施行令に基づき、令和元年度の採択により、令和2年度から令和5年度までの4年間、同一のものを使用しております。その使用期間が終了いたしますことから、令和6年度から令和9年度までの4年間使用いたします教科用図書をここで改めて採択していただくということです。

また、教科用図書の採択につきましては、文部科学省から出されております教科書目録に掲載された教科書のうちから採択することになっております。

23ページから順に添付されている一覧が、その文部科学省から出された教科書目録一覧でございます。教育委員の皆様による御審議をお願い申し上げます。

以上でございます。

○教育長【山口賢人】 ただいまの提案説明について、御意見や御質問がございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。

では、これより審議に入りますが、審議、採決に入る前に申し上げておきます。本日の採択に先立ちまして、伊勢原市教科用図書採択検討委員会を設置し、採択に関わる必要な事項の調査研究及び協議をしていただいております。

先日開催されました検討委員会の会議に、教育委員の皆様全員、そして私がオブザーバーとして出席し、調査・研究の内容を確認させていただきました。また、検討結果を書面でもいただいております。

よって、委員の皆様は、検討委員会での検討結果について既に把握されておりますので、改めてこの場では検討委員会での検討結果の報告はいたしません。

次に、審議、採決の方法についてでございます。まず、教育委員の皆様方それぞれから順番に御意見をいただき、御意見が出そろったところで採決に入りたいと思います。採決はお一人1回の挙手とし、過半数をもって決することとし、全員の挙手が終わった時点で終了といたします。よろしいでしょうか。

それでは、これから種目ごとに委員の皆様のお意見を伺って採決してまいります。

まず、国語でございますが、国語については3者から発行されております。

それでは、菅原委員から順に御意見ををお願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は3者の中で光村図書が最もよいと思えました。定番の読み物に加えて、ロボット、宇宙、デジタル機器など、最新のテーマを扱った科学的読み物、また、宮沢賢治などの名作、さらに短歌や俳句、落語、狂言といった古典などがバランスよく学べるような構成になっていると思います。また、二次元コードが充実していて、落語や狂言の実際の動画、古典文学の朗読、作家の生い立ちなどの情報に手軽にアクセスできるようになっています。

以上から、私は光村図書が最もよいと思えました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では続いて、渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 どの会社も、読む、話す、聞く、書くことの学びを深められるような工夫がされていると思います。読み物などの教材に適した図絵や写真を掲載して、親しみやすく学習できるよう工夫していると思います。

光村図書は言語活動の指導に関する工夫もされており、また、よい本の紹介や季節の言葉、言葉の活用を広げ、知識や感性を高める工夫がされていると思いました。取り上げている作品も、童話、感動を生み、思考を深める名作や科学的事象などのほかに、古典の世界、代表的な古文、短歌、俳句や古典芸能について、日本の伝統文化を学ぶ学習も用意されていると思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では続いて、福田委員からお願いいたします。

○委員【福田雅宏】 3者ともに巻頭に目的、鉛筆の持ち方、書く姿勢が写真によって分かりやすく、また、キャラクターの吹き出し等が分かりやすいと感じました。

東京書籍さんにはプラスチック問題の時事問題があったり、教育出版さんは雪を新しいエネルギーなどに活用するページ、それから、光村図書さんは春夏秋冬の四季を使った題材等の工夫があると思いました。

特に光村図書さんは、問題解決の整理、折り込みページがよいと感じましたので、私は光村図書さんがよろしいかと思えます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では、濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 私は光村図書を推薦いたします。1年生の学校に入って初めて出会う教科書、特に国語という教科書に対して、今まで小さい頃から読んでいた絵本とは違う、学ぶということに対しての導入部門で、あまり抵抗がなく、なおかつ知識として国語を学ぶという導入に対して、絵本のようなきらきら感や季節感を強く、光村図書の最初のところと感じました。

あとは、皆様お話ししていらっしゃるんですが、古典の学び方の中で、やはりこれからの現代社会の中で、日本の古い文化を学ぶには、無理なく少しずつ学んでいくというところが大事かなと思いますと、いきなり1つの学年でかなりの題材、教材を与えるのではなくて、各学年、通年通して、少しずつ古典の事例を挙げながら深めていくという姿勢を光村図書に感じましたので、光村図書を推薦したいと思えます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では、私の意見を申し上げさせていただきたいと思えますけれども、まず、それぞれの教科書、いろいろ工夫されているかなと思いますが、光村図書につきましては、特に子どもたちが深く感動したり、自らの考えを深めていくような読み物が充実しているのではないかなという印象がございます。

また、ちょっと視点は違いますが、伊勢原市では第3期教育振興基本計画がここで改定されて進められているところですが、その中で、読書活動を充実させ

ようということをおたっておりま。

そういう中で、他の教科書でも触れられてはいるんですけども、特に光村図書に関しては、単元に関連した本がそれぞれ紹介されていたり、あるいは学校の図書館、あるいは地域の公立図書館、そういうことに触れるようなページも充実しているかなと思っています。そんなことがありまして、伊勢原の子どもたちが使う教科書としては、光村図書の教科書がよろしいかなと私は考えました。

今、それぞれ意見が出終わったところですけど、何か追加で御意見はありますでしょうか。

よろしいですか。では、ないようですので、採決に入らせていただきたいと思います。

国語の教科用図書につきましては、3つの発行者から選ぶこととなります。これから発行者名を順次申し上げますので、この発行者の教科用図書がよいというところで1回挙手をお願いいたします。

それではまず、東京書籍がよいという方、挙手をお願いいたします。挙手なし。

続いて、教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手5名。

全員の挙手が終わりました。光村図書出版が5名でございました。よって、令和6年度伊勢原市立小学校、国語で使用する教科用図書は、光村図書出版のものと決定いたしました。

引き続きまして、書写でございます。書写については3者から発行されております。

それでは、今度は渡辺委員から順に御意見ををお願いいたします。

○委員【渡辺正美】 各者共に、平仮名、片仮名、漢字などの文字を書くことの学習内容が、学年に応じて、硬筆、毛筆の指導内容が分かりやすく、また、活動の留意点も示されていると思います。

光村図書は、子どもたちの読む、書くなどの学習時の好ましい姿勢、用具の持ち方、片づけなどの基礎的、基本的な内容が繰り返し扱われており、また、国語の教科書と同じほうが、学習指導上で連携、活用しやすいのではないかと思います。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

福田委員、お願いいたします。

○委員【福田雅宏】 3者とも、オノマトペ、あと、姿勢、持ち方等が記載されており、工夫されているなと思いました。

東京書籍さんは、体操ですとか、5年生に筆記具の特徴があり、これも工夫されているなど。

光村図書さんは、巻末水書の付録に”ます”が載っている、これがいいのではないかなと感じまして、3年生ではへん部分の組立て等も工夫されている。また、6年生の筆記用具の特色等が個人的に非常にいいのではないかと感じましたので、私は光村図書さんがよろしいかと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 私は光村図書がよいと思いました。今のキーボードを触って文書を作成するという時代の中で、自筆で文字を書くということの大切さ、それをいかに子どもたちに自然に学ぶためには、やはり、まずは基本が大事だと思います。また、文字に対する意識としては、まず身の回りのものからまず学ぶということが大事かなと思ひまして、光村図書の最初の文字の言葉の取上げ方が身の回りのものに対しての文字を意識されていることに共感を覚えました。

あとはやはり3年生から6年生まで、必ず書く姿勢を大事にするというところを改めて表示されているところに、基本は姿勢であることを学んでいただきたいと私も思いますので、光村図書を推薦いたします。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

菅原委員、お願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は光村図書がよいと思いました。他者もオノマトペを使って、筆運びのイメージがつかみやすいように工夫されていますが、光村図書はイラストの猫の体の動きが添えられていて、さらにイメージしやすくなっています。

3年の毛筆の導入の場面では、腕を使った空書きの実際の写真が掲載されており、全体的に手先だけでなく、身を入れて、体全体を使って書くことが強調されているように思います。

学校訪問をしますと、教室の後ろの壁に子どもたちの毛筆の作品が並んでいるのを目にします。しっかりした字、元気いっぱいの子、こじんまりした字、よれよれの字など様々ですが、うまい、下手を超えたそれぞれの文字の個性に、いつも胸を打たれます。

光村図書の6年の教科書の最後に、各界で活躍されている数人の方々の決してうまいとはいえない文字が紹介されており、そこに添えられた「文字には書く人によって異なる味わいがある」という言葉にとっても共感しますし、子どもたちも自信を持てると思ひました。

以上から、私は光村図書が最もよいと思ひました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

私は小中学校に訪問させていただいて授業を見させていただく中で、まず、中学生の鉛筆というか、中学生はシャープペンシルを使うケースが多かったですけれども、持ち方が随分、これでいいのかなというようなものが多く、気になっております。

小学校に行くと、そのところはしっかり指導できているのかなと思ひているんですけども、でも、やっぱり小学校でも同じように鉛筆の持ち方がちょっと気になるなと思ひている中で、各者の書写の教科書を見させていただいた中で、東京書籍につきましては、左利きのお子さんについての配慮が随分されているなと感じました。今、教育的ニーズがいろいろ必要とされている中で、細かい配慮がされている点については、大変魅力的であるなと思ひました。

また、光村図書の教科書につきましては、鉛筆を持った手の写真とか、あるいはイラストが大きく書かれているので、その分、子どもたちにとっては分かりやすいのかなと思いました。

また、3年生の教科書の中には、鉛筆と筆の持ち方の違いというようなポイントが分かりやすく押さえられているのもいいなと思いました。

また、光村図書につきましては、学習すべき点が一目で分かるような工夫がされているのも使いやすいのではないかなと思いました。

私からは以上になります。

○教育長【山口賢人】 何か追加で御意見はありますでしょうか。

では、ないようですので、採決に入らせていただきたいと思います。

書写の教科用図書につきましては、3者から選ぶこととなります。

まず、東京書籍がよいという方、挙手をお願いいたします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

光村図書出版がよいという方、挙手をお願いいたします。挙手5名。

全員の挙手が終わりました。光村図書出版が5名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市立小学校、書写で使用する教科用図書は、光村図書出版のものと決定いたしました。

では続きまして社会でございますが、社会については3者から発行されております。

では、今度は福田委員から順に御意見をお願いいたします。

○委員【福田雅宏】 3者とも学習の進め方、ステップ、つかむ、調べる、まとめる、関連づける等の工夫があって、いいのかなと思いました。

特に日本文教出版さんは、ステップの最後に未来をつくる力をつけるとして、これもいいのではないかな。また、巻頭に都道府県を手書きする資料、これは非常にいいのではないかなと思いました。

それから、教育出版さんは、3年生の巻頭、4年生に水、あと、もっと知りたいで箱根等、神奈川の記載が多く感じられました。また、6年生でパラリンピック選手等を題材、3者の中で写真が非常に多く使われていると思ひまして、私は教育出版さんがいいのではないかなと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では、濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 私は教育出版がいいと思いました。ものづくりを考えさせ、社会という学問が世の中の仕組み、現状を知るといふ入口の学問として、現状を正しく理解するといふ意味で、産業の成り立ちといふところにちょっと注目いたしまして、米作りのところを注視して拝見しました。教育出版さんだけが新潟の南魚沼を取り上げていらして、ほかの日本文教出版さんと東京書籍さんは山形の米作りを取り上げていらっしゃいました。現実的に考えると、新潟の米作りが日本一であるといふ現状はまだしばらく続くのかなと思うとともに、他者さんの山形の米作りを取り上げている意図が私はちょっと知りたいなといふところがあります。近年温暖化、品種改良が進み、北は北海道まで美味しいお米が採れ、

日本全国でおいしい米がたくさん採れるようになってきている時代であるよという提唱というか、そういう観点で山形の米づくりを細かく学ぶような姿勢を求められているのかなと思ったんですが、今、現実的には、まずは新潟の米を参考にして、それから日本の農業に対して考えていくという観点に私は同意したものです。

あとは工業についても、ひたすら、ただ「工業」という言葉でなくて、「未来をつくり出す工業生産」というタイトルがありまして、農業に関しても「未来を支える食糧生産」というタイトル、子どもたちはそのタイトルを見て、どこまでそれを理解するか分からないんですが、単純に学問として、ここでこんなものがたくさん作られているということじゃなくて、どうしてそこでそんな産業ができていくのかなというところを先生方が導いていくために、これからの時代をつくり出すための産業ですよというような問いかけがそのタイトルに込められていて、内容に関しても、その視点で解説がされているところに共感を覚えました。皆さん、それぞれすばらしい内容ではあるんですが、産業に関しての観点を自分の中で感じたものですから、教育出版を推薦させていただきたいと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

菅原委員、お願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は教育出版の教科書が最もよいと思いました。地の文の中に「〇〇さんたちは××について調べました」という文言が入っているのは、一方通行に知識を入れるのではなく、子どもたち自身が共に考え、学んでいくというコンセプトの表れだと思いますが、全ての項目がその文で始まると、かえって流れの理解の邪魔になったり、重要度を分かりにくくしてしまったりするきらいがあると思います。

教育出版の場合は、5年生以降は地の文からそのような文言が調べ学習を除いてはほとんどなくなり、重要なことがすっきり整理されて頭に入ってくるように思いました。

また、教育出版の6年の歴史分野では、昔の白黒写真の多くがカラー化されていて、子どもたちに、より歴史的事実が生々しく迫ってくるように思います。また、年表が折り込みを開くと縄文時代から現代に至るまでが一目で見られるようになっており、時代の流れの全貌がよどみなくつかめるようになっているのも優れた点であると思います。

また、災害援助の章で、日本から海外への援助だけでなく、東日本大震災のときの海外から日本への救助活動について写真入力で掲載されているのも教育出版の特徴でした。

以上から、私は教育出版が最もよいと思いました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では、渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 3者とも学年ごとに異なる学習ですので、それぞれの学習の狙いに沿って学習の進め方が示されており、関連する絵図や写真を豊富に使って、同世代の補助的キャラクターの発言なども加えながら、親しみやすく学習

できるような工夫がされていると思います。

ただ、教育出版は、特に1時限の学習を見開きに2ページで編成しており、学習の進め方も分かりやすく示されており、また、文字やいろいろな事象の解説もその都度あり、学習内容の理解を助けていくものと思いました。また、何よりも使われている教科書の教材や資料に神奈川の横浜や伊勢原があり、学習する内容を身近に感じながら学習することができ、親しみやすく、理解が進むものと思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

今、複数の委員から、教育出版の教科書については神奈川県の記事が多いのだという話がありましたが、私もそれはとても子どもたちが興味を持ちやすくなる大きな要素かなと思っております。

特に伊勢原では、3、4年生については副読本の「いせはら」というものを使っております。この「いせはら」は、もちろん伊勢原に特化した資料が載っているわけです。教育出版は神奈川県の中でも横浜に割とフォーカスした資料が載っているんですけども、同じ神奈川県の中の伊勢原市と大都市の横浜のものを見比べながら授業に使うと考えると、大変、効果的な学習ができるのではないかなと思いましたので、私は教育出版の教科書がよいかなと思いました。

ほかに何か御意見はありますか。

よろしいですか。では、ないようですので採決に入らせていただきたいと思います。

社会の教科用図書につきましては、3つの発行者から選ぶことになります。

まず、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手5名。

ここで全員の挙手が終わりました。教育出版が5名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市立小学校、社会で使用する教科用図書は教育出版のものと決定いたしました。

では引き続きまして地図でございしますが、地図については2者から発行されております。

では、濱田委員から順に御意見ををお願いいたします。

○委員【濱田光子】 私は帝国書院がいいと思いました。私たち大人が使う地図とはちょっと違う内容というか、世界の国々とのつながりとか、資料として地域と地域を結びつけるとか、いろいろな角度から地図を考えていくというところには、いろいろな書き込みとか説明とかが必要なのかということを改めて今回の教科書を見させていただいて感じた次第です。

その中でも、やっぱり地図としては、どうしても色合いのよさというのが大事なところかなと思ひまして、帝国書院は色合いに見やすさを感じました。あとは豊富な資料もたくさんありまして、グラフ化されている情報も多く、社会の勉強と現実の生活との結びつきを知る資料としても大いに活用しやすいのかなと思ひました。

あとはちょっと細かいところで恐縮ですが、拡大地図が大都市のところにあるんですが、首都東京都というと、ほぼ、私たち神奈川県隣の地域と考えたときに、拡大地域の地図が帝国書院は東の荒川まで入って、どちらかといったら千葉近くのほうまで拡大されていて、現実的に荒川を越えた向こう側のところでもいろいろな産業が成り立っていますので、その辺の地図も、ぜひ拡大地図としたら加えていただきたいなと思いました。

あと、西の大阪ですが、大阪の拡大地図が東京書籍さんには特になくて、奈良、京都の部分に関しての拡大地図に加えて、学校の授業の展開で、大阪の産業、文化、交通とかの知識が細かくどこまで必要かどうかという部分はあるんですが、大人の観点かもしれませんが、東京と大阪拡大地図を同じような対象で採用していただけたらなという思いがありましたので、帝国書院を推薦させていただきま

す。
○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では、菅原委員、お願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は帝国書院がよいと思いました。表紙が柔らかいので、手によくなじみ、繰り返し使用したり、開いたままにしておいたりといった地図帳ならではの使用方法を考慮したつくりになっていると思います。

また、メジャーリーグの本拠地が記入されているアメリカの詳しい地図や、「東京都とその周り」と題して、伊勢原を最南端とし、その北部の丘陵部、山岳部が拡大された、あまり目にしたことのない地勢図など、伊勢原の子どもの興味を引く、また、子どもに持ってほしい視点から描かれた地図も記載されていることから、私は帝国書院の地図帳がよいと思いました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では、渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 2者共に、地図帳の使い方、それから世界の地図、日本の地図、共に高度差や土地利用も色分けされ、工夫されています。また、後編の資料編には自然や産業、日本や世界の統計、地図帳に必要な索引なども掲載されていると思います。

ただ、帝国書院は地図帳の使い方が14ページ用意されています。より丁寧で分かりやすいと思いました。

それから、各地や世界の国々の人々の生活の様子、それから、歴史等を知ることができるような地図帳に関係の深い事象や絵が同時に記載されている、こんなこともよいのではないかと思います。

また、日本を広く見渡す地図や世界の国々を色分けした地図もあり、位置や形状を理解することの助けになると思いました。

資料編は合計38ページあります。日本の自然や産業が取り扱われております。その中で主要な生産地の帯グラフや農水産業や資源の輸入先の帯グラフなどもあり、内容が豊富でした。また、自然災害とそれに伴う各地の防災の取組も紹介され、日本や世界の食糧問題、SDGsについても扱われておりました。現代社会の重要な課題に気づき、理解する助けにもなるものと思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では、福田委員、お願いいたします。

○委員【福田雅宏】 東京書籍さんは、主題図、産業とか歴史とかが多いような気はしました。

帝国書院さんは、索引と巻頭地図、個人的に、色の使い方がすごく見やすかったなど。縁が濃くて中が薄い、濃淡がすごく見やすいなと思いました。あと、広く見渡す地図、それから標高も分かりやすいと思いましたし、SDGsもまとまっているのではないかな。詳細地図も多い気がしました。子どもの目線から見ると、自分の子ども時代を思い出しますと、地図をもらって、先生の話聞かずにみんな地図を広げていた、あのときの楽しさを思い出しながら両者とも見たんですけども、個人的には帝国書院さんのほうが楽しく見られたなと思いましたので、私は帝国書院がいいと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

私も帝国書院の地図帳がいいと思いました。子どもたちが初めて地図に触れていく中で、割となじみやすい入り方をしているかなと感じたこと、あと、いろいろな縮尺の地図が掲載されていますので、目的によって大きい地図、目的によっては小さい地図、そういうものを選べることも魅力的なのではないかなと感じました。

では、それぞれからの意見が終わりましたが、どうでしょう、何か追加でございますでしょうか。

よろしいですか。では、ないようですので、採決に入らせていただきます。

地図の教科用図書につきましては、2つの発行者から選ぶことになります。

東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

帝国書院がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手5名。

全員の挙手が終わりました。帝国書院が5名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市小学校、地図で使用する教科用図書は帝国書院のものと決定いたしました。

次に算数でございますが、算数については6者から発行されております。

それでは、また菅原委員から順に御意見をお願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は啓林館が最もよいと思いました。盛り込み過ぎず、詳し過ぎず、説明や絵が端的で分かりやすいと思いました。また、付属の教材が工夫されていると思いました。

例えば2年生の教科書には9×9のマスに丸いブロックが並べられている表が折り込まれていて、それを広げると教科書のページを開きながら参照できるようになっており、九九の導入期に丸暗記ではなく、九九の概念を理解しながら学べるようになっていたと思いました。

3年生になると、九九の答えが記入された小さめの九九表が切り取って使えるようになっていて、九九が定着していない子どもが割り算など先に進む際に、物的サポートとして用いることができるようになっていきます。

このようなことから、私は啓林館が最もよいのではないかと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では、渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 どの教科書も補助キャラクターの児童の発言を分かりやすく組み込んでいて、そして、絵、図、物などを楽しく分かりやすく数値化したり表したりして、分かりやすく取り組めるような工夫をしていると思いました。

また、学習の進め方、それから教科書の使い方、ノート書き方なども掲載されていると思います。

教育出版は、単元の初めに学習内容に応じた身近な例題を示して、子どもたちに興味、関心が湧くような工夫をしております。また、設問が見やすく、学習上の理解の筋道が分かりやすく、定着のための練習問題や発展的学習も用意されています。学習の手引で用具の使用法などの解説もよいのではないかと思います。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

続いて、福田委員からお願いいたします。

○委員【福田雅宏】 全ての出版社さんに巻頭にノートのつくり方、学び方、進め方等があり、また、巻末には学年のまとめページがあつて、よかったと思います。

中でも、学校図書さんと日本文教出版さんには次の学習のための予習ページがあつて、これはよかったと思います。ただ、親目線からいきますと、補充、チャレンジ等、別冊も含め充実している学校図書さんが私はよろしいかと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では、濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 私は教育出版がいいと思います。どの出版会社さんも身近な題材から数字、形、並べ方というようなことに取り組んではいられるんですが、教育出版さんの捉え方は、その先に子どもたちに自ら工夫をさせるという観点を感じました。そのために、広がる算数とかステップアップ算数とかいう発展問題も自分たちで取り組めるような工夫がされていると思いました。

あとは各者とも巻末の索引があるんですが、細かく、これは大人の目線で見ただからかもしれませんが、ちょっとこの言葉はどういうものなのかなと調べるときに、一番、教育出版さんの索引が細かい言葉使いまで取り上げられて、索引の項目が多かったんですね。ですので、自ら教科書を使いながら、二次元コードで回答を求めるといった時代になったのかなということも含めましたが、巻末にも答えが印字されているというやり方と、自分で学習するという、子どもたちに工夫するという、そういう工夫がされていることを感じましたので、教育出版を推薦いたします。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

私もいろいろな教科書を拝見しましたがけれども、先ほど他の委員さんから話が出ましたが、補充問題やら何やらで、それぞれがいろいろな工夫をされている

かなと思いました。

その中で、1年生に入学した最初に算数に触れる、そういうことを想定したときに、啓林館のスタートブックというのは、とても魅力的だなと思いました。なぜかというと、何も問題がない、言葉が書かれていないページから始まっていました。子どもたちにとっても、自然な形で入り込めるかなということ、それから、教える先生方にとっても、先生方の思いの中で、そのページをどう使うかという工夫がいろいろできるので、いいかなと思いました。

その一方で、算数というものはやっぱり、今はほかの教科もそういうことが求められています、特に自分で考えるということをお願いしたい教科だなと思っています。考えて解決する、そういうことの繰り返しになってくるわけですが、そうすると、やはり、考えて解決するに当たっての既習事項がどれほど定着しているかということが大変重要になってまいります。そういう意味で、算数の学習で子どもたちがつまづくポイントの一つとしては、複数の数量の関係とか変化についての問題を考えるとき、戸惑ってしまったり、どう考えていいのか分からなくなると算数が嫌いになってしまう、そういう子が多いような印象がありますけれども、その際に、算数の中では数直線というのを利用すると割とうまくいくケースが多くあります。何者かの教科書の中で数直線の書き方とかが示されておりますけれども、その中でも教育出版の教科書については、3年生の上巻で、その書き方が示されておりました。そして、4年生以降の各教科書の中でも、学びの手引というコーナーの中で繰り返し示されていたり、あるいは実際の問題解決の場面場面で随所に数直線が示されていて、算数の様々な課題を考え、解決するためのツールの一つとしての数直線が大変身につつきやすくなっているなど感じておりまして、そういう意味で、私は教育出版の教科書がよいのではないかなと感じました。

何か委員さんから追加でございますでしょうか。

よろしいですか。では、ないようですので採決に入らせていただきます。

算数の教科用図書につきましては、6つの発行者から選ぶことになります。

まず、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

学校図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手3名。

新興出版社啓林館がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

ここで全員の挙手が終わりました。

学校図書1名、教育出版3名、新興出版社啓林館が1名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市立小学校、算数で使用する教科用図書は教育出版のものと決定いたしました。

引き続きまして理科でございます。理科については6者から発行されております。

それでは、渡辺委員から順に御意見ををお願いいたします。

○委員【渡辺正美】 各者とも学習の進め方が、問題を見つける、実験・観察、

まとめる、広げるの手順で編成されております。また、写真や絵図を豊富に使い、キャラクターの補助発言も加えて、学習しやすくなるような工夫をされていると思いました。器具の使用法や注意点も確実に書かれております。

ただ啓林館は、学習活動のそれぞれの場面での学習の狙いや、実験や観察方法が分かりやすくその都度示されております。写真・絵図も見やすく、また観察や実験での器具の使い方は実際の授業に即しての解説もあり、理科室の使用方法の解説も丁寧で、細かな安全対応の配慮もされていると思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では福田委員、お願いいたします。

○委員【福田雅宏】 各者とも、学び方や進め方、ノートの書き方、話合いや記録の仕方等があり、また単元の終わりには「確かめよう」等もあり、工夫されているなど。

啓林館さんは、3年生の巻末に厚手のシート、これはいいなと思いました。また、他者には危険・注意等が巻末にあります。また、単元初めに「先生との約束」としてありまして、これもいいなど。

教育出版さんは、巻頭に全学年の振り返り、巻末にはまとめがあり、裏表紙に安全の手引きが見やすくありまして、また、5年生の「流れる水と土地」、それから6年生の「人体図」が、とても他者と比べて詳しいなと感じましたので、私は教育出版さんがいいと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 私は啓林館を推薦いたします。編集の意図の中の大体1番目のところに、協働的な学びという趣旨を編集のところで読みまして、先ほどいろんな教科もあるのですが、知識として学ぶということに加えて、仲間と一緒に学ぶという、そういう協働の働は働くという字なんですけれども、そういう感覚というのは、やっぱり学校教育の中ではとても必要なことなのかなと思います。

そういう観点の中で、伝え合うということ、そういう姿勢を割と重視されているところが見られました。1人でももちろん学問を追求するというのも必要とは思いますが、いろんな考え方の人がいて、その人たちのことを聞く耳を持って、その人たちに対して自分の考えを述べるというような、そういう展開の仕方を、イラストの中に、お子さんの言葉が吹き出しの中にあり、そこにアンダーラインというのが微妙にあったものですから、それが気にはなったんですけど、それがとても大事だというような編集の意図のところに書いてありまして、小さな声でも自然の事象の中で気がついたことに対しては、みんなで感じたことを述べ合おうよという、そういう姿勢に対して非常に共感を覚えました。

あとはいろいろ、暮らしとリンク、やっぱり日常生活と結びつけて理科を考えていくという姿勢を強く感じましたので、啓林館を推薦させていただきたいと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

次に菅原委員、お願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は啓林館の教科書がよいと思いました。单元ごとに、まず「思い出そう」で既習事項に触れた上で、問題、予想、計画、実験、結果、考察、まとめの流れがすっきりと、しかも丁寧に明示されていて、中学以降の理科の学習や論理的思考の醸成に役に立つ構成になっていると思いました。

「暮らしとリンク」のコラムでは、エクモ、防火扉、てこの原理に基づくボディメカニクスを利用した介護の仕方など、身近な生活の中の科学に目を向けさせたり、「活用しよう」では、月の学習を与謝蕪村の「菜の花や」の俳句に結びつける教科横断的な課題が示されていたりなど、子どもの視野を広げるよう工夫されていると感じました。

以上から、私は啓林館の教科書がよいと思いました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

今、小学校では、経験の浅い先生方が増えております。昨日も、この科学館のところで、自由研究相談室というところに2年目の若い先生が来られていましたけれども、そういう方々にとっては、やっぱり実験とか観察、そういうものを安全に注意しながら効果的に授業として取り組む、そういう観点からみて使いやすい教科書が良いのではないかなというふうに思っています。

そういう観点から各発行者の教科書を見てみると、啓林館の教科書は、詳しく丁寧にそういう部分がかかれていて、また、目当てや課題が明確なので、授業が進みやすいのではないかなというふうに感じました。

また、実験器具の操作方法や手順が実験ごとに掲載されていること。あるいは、各実験のページに、注意だけではなくて、保護眼鏡とか換気とか廃液などの細かなところにマークが記載されて、注意が促されるようになっております。

さらに、実験のまとめ方については、結果を整理し考察する過程を丁寧に扱い、より科学的に考え、話し合う活動が充実できるようなつくりになっているように感じました。

そんなことから、私は啓林館の教科書がよいのではないかなというふうに思っております。

ほかに何か御意見ありますでしょうか。

では、ないようですので採決に入らせていただきます。

理科の教科用図書につきましては、6つの発行者から選ぶこととなります。

東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

学校図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

信州教育出版社がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

新興出版社啓林館がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手4名。

ここで全員の挙手が終わりました。教育出版1名、新興出版社啓林館4名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市小学校、理科で使用する教科用図書は、新興出版

社啓林館のものと決定いたしました。

では、引き続きまして生活でございます。7者から発行されております。

福田委員から順に御意見をお願いいたします。

○委員【福田雅宏】 各者とも使いやすい工夫が見て取れました。

大日本図書さんでは、右下の「きもちマーク」、巻末の「がくしゅうどうぐばこ」。学校図書さんは「あんぜんのページ」「いかのおすし」「学び方図かん」。教育出版さんは、ページ右側に「やくそく」「できるかな」「ヒント」等、あと「おぼえてあんぜん」。光村図書さんは巻頭に使い方、ページ右下に「ちょうせんした」「きづいた」など。巻末の厚手の図鑑、別冊になる生活事典。これはいいと思いました。

それから啓林館さんは、巻頭に「あんしん あんぜん」、ページ左側に「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」、巻末のステップブック、これもいいと思いました。

東京書籍さんは、巻頭下段に「保護者の皆様へ」、ページ右上は「やくそく」「やってみよう」「考えよう」、ページ右下「てをあらおう」等、巻末の便利手帳、これも非常によろしいかと思いました。

個人的にはすごく甲乙つけ難いと思ったのですが、親目線で、子どもたちには分かりやすいのかな、ページの工夫があるのかなというので、個人的には東京書籍さんが特にその点で見られると思いますので、東京書籍さんがよろしいかと思えます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 東京書籍がいいと思います。伊勢原の子どもたちの生活を考えると、いろいろ状況が変わってはきていますが、まだまだ自然の中で過ごす時間に恵まれている環境だと思います。

そんな中で、自然のもの、植物に対して関心を持ちやすいような教材が数多く取り上げられているので、子どもたちがわくわくして生活の教科書を広げ、自分の身の回りのものと比べてどうなのかなと考え、まずは身の回りの環境に対して考える、導入の部分の生活として取り組みやすいのが東京書籍かなと思いました。

あとは、やはり保護者、まず低学年に関しては保護者の方も一緒に教科書を見られるという時間がまだまだあるかなと思います。その中で保護者向けのメッセージも加えられているというところで、私は東京書籍を推薦させていただきます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では続いて菅原委員、お願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は学校図書の教科書がよいと思いました。4人の子どものキャラクターと一緒に学んでいく設定になっていますが、それぞれ個性があって、引っ込み思案で先生の励ましが必要な子もいて、子どもたちが感情移入しながら学んでいくことができると思いました。

写真が多く、図鑑としての機能も充実していて、草花を使った遊びもたくさん紹介されています。

密度の濃い詳しい情報は、「ものしり図かん」「ものしりノート」として別枠が設けられていて、基礎的な地の文とは分けられ、メリハリのついた構成になっていると思います。

単元のタイトルも、子どもの興味を誘う親しみやすい文言になっていると思いますし、巻末には「生活科学び方図かん」として、話す、見る、聞くなど、学ぶ際に必要な態度や方法が分かりやすく整理されていて、理科や社会の学習の基礎となる知識や態度を楽しく身につけることができるのではないかと思います。

以上から、私は学校図書が最もよいと思いました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 各者とも学習の進め方が、身近な学校、それから町、それから人との関わり、そういう中で、季節ごとの動植物の変化などを取り込んでいるように思いました。

また、写真や絵図、キャラクターの補助発言も加えて、学習に取り組みやすく、小学校の低学年が取り組みやすくなるように工夫していると思いました。

学習内容では、身近な道具づくりや遊びなどとともに、交通安全や健康な生活、パソコンの活用なども掲載されており、巻末には大切な事項をまとめて確認できるような工夫もそれぞれなされているというふうに思いました。

そういう中で東京書籍は、物事や動植物に関わり活動する子どもたちの楽しそうな写真や絵図を特に多く使っているように感じました。学習意欲に大いにプラスになると感じました。

また、学習活動の面で、身近な校庭や公園、町並みなども、季節の変化ごとの図絵を表しており、季節感を感じ取れるような工夫もされており、子どもたちがその教科書からさらに実際の授業の中で、それぞれ季節を感じるような工夫がされているというふうに思いました。

安全対応の配慮もされているというふうに思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

伊勢原の小学生については、『いせはらのしょくぶつ』という副読本を生活科で利用しております。この副読本と、この生活科の教科書とを併せて使うということを想定したときに、どの教科書がよろしいのかなというふうな観点で考えてみましたが、各発行者、様々な工夫をされているかなというふうには思っております。

そういう中で、特にその副読本『いせはらのしょくぶつ』、自然とか身近な植物、そういうものにスポットを当ててということ考えると、東京書籍が、様々な身近な植物の特徴とか遊びなど、こういうものの記述が豊富にされているなどというふうに感じました。

先ほど申し上げたその副読本と併せて使うことで、学習活動をより広げたり、豊かな表現活動につなげたりということに役立つのではないかなというふうに感じたところで、私としては東京書籍がよいのではないかなと考えているところで

ございます。

ほかに何か皆様からありますでしょうか。

では、ないようですので採決に入らせていただきたいと思います。生活の教科用図書につきましては、7つの発行者から選ぶことになります。

まず、東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手4名。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

学校図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

ここまでで全員の挙手が終わりました。東京書籍が4名、学校図書が1名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市立小学校、生活で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

続きまして、音楽でございます。2者から発行されております。

では、今度は濱田委員から、順に御意見ををお願いいたします。

○委員【濱田光子】 教育出版がいいと思います。音楽というのは、もちろん知識として楽譜が読めたり楽器が弾けたりというようなことを学ぶ学問だとは思いますが、何よりもまず心が揺れ動いたとき、感動したときとか悲しいときとかにそのメロディーが上ってきて、リズムが出てきてというところに出てくるのが音楽だと思うことを考えると、音楽の教科書の中で少しでもその感動を覚えるような映像というか写真は、やはり必要なのかなと思います。

その中で、教育出版さんの、見開き2ページにわたるきれいな写真が何枚か取り上げられていまして、その絵をぱっと見たときに、子どもたちが何を感じるのかな、そこで「うみ」という曲が耳から入ってきて歌ったりして、何を感じるのかなというところに、音楽の広さというようなものを子どもたちの中に感じさせるような、説明は要らないねというようなところで。

教育芸術社さんのほうは、そこに少し説明が加えられているものですから、やはり曲の、それぞれの皆さんの感じ方というのはそれぞれ違うので、単純にその題材と曲の歌詞とメロディーをぼんと提示していただいて、そこで、それをまた形にしたところで子どもたちが何を感じるか、また、お互いに何を感じ合うかなというところを、そういう教材として考えるとすると、あまり細かい説明がない曲の紹介の仕方というものに共感を覚えました。

あとは、楽器を学んでいくに当たって、鍵盤ハーモニカの学び方に対して、見開き、1年生のときに6ページも使って大きく説明されていまして、2ページ丸々使って、下半分のところで鍵盤ハーモニカがありまして、実際に楽器を出さなくてもそこに指を置いて学べるというようなところも、子どもたちの視点に沿っているのかなと感じました。

あとは、個人的なことですが、「花は咲く」という曲が巻末にありまして、音楽は時代によって教科書に取り上げる曲が変わってくると思います。

東北大震災から10年もたつのですが、やはりいろんな意味でその時代を反映した曲というものが取り上げられると思うんですが、「花は咲く」という曲を取り上げていただいた思いというのは、まだまだいろんな意味で、復興から立ち直

っていく、これからのことを考えていくような、そんな強いメッセージ性はなくてもいいかと思うのですが、あの美しいメロディーを子どもたちが歌いながら何を感じるかというのを教材として取り上げていただいた、教育出版を推薦させていただきます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

続いて菅原委員、お願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は教育出版の教科書がよいと思いました。歌に関係する写真や挿絵が多く、二次元コードで実際の虫の声、お寺の鐘の音などを聞くことができるようになっており、歌に対するイメージが湧きやすい一方で、言葉による手引きは少なく、子どものイマジネーションを大切にし、素直に歌を楽しむ心を大切にしているように感じました。

初めてリコーダーを習う3年以降、6年まで、リコーダーの指使い一覧が巻末に折り込まれていて、広げると楽譜のページを見ながら指使いを参照できる工夫がされています。

巻末の音符の長さなどの一覧も、大きく分かりやすいと思いました。

伊勢原との関連でいいますと、運動会の定番の「ソーラン節」が4年生で歌唱と鑑賞の両方で扱われており、6年の最後には滝廉太郎の「箱根八里」が大きな写真と歌詞の解釈と共に取り上げられています。

また、伊勢原の小学校で教鞭を執られた吉田覚先生が編曲された「さんぼ」は、3年生から6年生までの4学年で扱われ、学年を追うごとに楽器が増え、難易度も上がっていく構成になっていて、子どもたちが自分の成長を実感できるのではないかと思います。

以上から、私は教育出版がよいと思いました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 両者とも歌唱曲、それから楽器演奏などの指導などでは、それぞれの狙いを明確に教科書内に示しております。また、音楽活動に関わる知識や理解が深まるような工夫も、それぞれの箇所工夫されていると思います。

教育出版は、子どもたちの活動写真や絵図などで学習内容が分かりやすくなるように、特に楽曲の歌詞に合わせて子どもたちの思いが高まるような図絵、写真が多いのかなと思いました。

また、様々な音楽活動が紹介されており、自然の歌、心の歌、季節の歌、みんなの歌等、音楽と世の中のつながりを大切にしていると思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では福田委員、お願いいたします。

○委員【福田雅宏】 どちらも巻頭に学習マップ、それからマークの工夫があったと思います。

教育芸術社さんは、3年生のリコーダーの、この運指表も含めてですけども、教育芸術社さんのほうがいいのかなど。分かりやすいのかなと。6年生の特集で

著作権を挙げられていたのは、これもまた、いいのではないかと。

教育出版さんは、巻末折込ページ、これがすごくよかったなど。あと小学校1年生で英語の歌を取り上げているんですよね。これもよかったのと、あと、楽譜がページをまたがないのは教育出版さんのほうがあったので、1ページに楽譜が載っていた、これも分かりやすいなと思いました。それから、鍵盤ハーモニカの図が大きかったのも教育出版さんだと思いました。

あとは個人的に雅楽を20年以上やっていますが、6年生の44ページに「越天楽今様」というのがあって、これ、私、20年以上やっていますけど知らなかったもので、個人的には勉強になりました。

いろいろあって、教育出版さんのほうが、私は個人的によろしいかと思えます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

今、福田委員さんから教育芸術社の教科書のリコーダーのところの記述の御意見がありました。私もその部分で、吹き方というんですか、タンギングという舌を使う、そのところがすごく詳しく書かれているなということをちょっと感心いたしました。

全体的に見てみると、教育出版の教科書は、日本の風景とか写真とかそういうものが効果的に掲載されているなというふうに感じました。そういうものを視覚的に情報を入れる中で、子どもの心が動くなんていうことにつながり、楽曲のイメージを広げたり、表現活動を豊かにする、そういうふうにつながってくるのではないかなというふうに感じたところでございます。

そんなことで、教育出版が、私としてはよろしいかなというふうに考えているところです。

ほかに何か御意見ありませんか。大丈夫ですか。

では、ないようですので、採決に入らせていただきます。

音楽の教科用図書につきましては、2つの発行者から選ぶこととなります。

まず、教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手5名。

では、ここで全員の挙手が終わりました。教育出版が5名でございましたので、令和6年度伊勢原市小学校、音楽で使用する教科用図書は、教育出版のものと決定いたしました。

引き続きまして図画工作でございしますが、2者から発行されております。

それでは、菅原委員から順に御意見をお願いいたします。

○委員【菅原順子】 どちらも甲乙つけ難く、よい教科書だと思いました。単なる手を使ってのアウトプットにとどまらず、その前に自然や日常的な環境に五感をフルに使って働きかけ、そこから得たものをインプットして自分の内面を豊かにしていくことが、それぞれの味わい深い自己表現につながるというコンセプトが伝わってくる構成になっていると感じました。

数少ない相違点の一つは、日本文教出版は、「お話から生まれたよ」「言葉から思い浮かべて」「言葉から想像を広げて」などと題して、自分の好きな物語や、「ごんぎつね」や「やまなし」など国語の教科書に出てくる童話、あるいは二次元コードに収録されている詩の朗読など、言葉からイメージしたものを絵として

表現するという活動が、1・2年上から一貫して入っているということです。

言葉という目に見えないものをインプットし、それを頭の中で一つのイメージにまとめ上げ、目に見える形に表現するという活動は、国語の学習にもつながり、今の子どもたちにとっても必要な活動であると感じます。

以上から、私は日本文教出版がよいと思いました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 両者共、授業ごとに学習の目当てや活動の概要がしっかり示されていると思いました。また、学習活動の中での子どもたちの活動の様子や作品も数多く紹介されていると思います。

ただ、日本文教出版が、子どもたちの活動写真、活動している様子や作品が大きくて見やすいなと思いました。それから学びの資料などでも、学習活動での安全への配慮もよくなされております。また、学校・家庭・地域での図画工作とのつながり、それから未来への広がりのためのヒントなどが意識されているというふうに思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では福田委員、お願いいたします。

○委員【福田雅宏】 両出版社、共に巻頭には目当て、使い方、巻末には道具の使い方、材料と用具の引き出し、左上にテーマ、使う物、片づけ等が分かって分かりやすいなど。

日本文教出版さんは、目次の記号、これがすごく分かりやすいなと思いました。

開隆堂出版さんは、左上の使う物が分かりやすいのと、「みんなのギャラリー」というので伝統技を学ぶページがありまして、私、個人的には開隆堂出版さんがいいかと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 私は日本文教出版がいいと思います。やっぱり主体的に作業をするということはとても大事ななど。物を作るときに。その時に、いろいろ作業工程が細かく説明されているので、子どもたちが自ら作業するときにあって、安全に配慮してやるという作業の分かりやすさが、日本文教出版のほうに配慮がされていると思いました。

あとは写真の取上げ方が、一部を撮ったときと、それをもうちょっと拡大して、その作業の様子を分かりやすく拡大してあり、どうやったらいいのかなというところが、先生の説明を待つまでもなく、もちろん二次元コードを参照する方法もあるかと思うのですが、まず教科書を開いたときに、その作業はどんなことが大事なのかなを自ら考える配慮がされていると思ひまして、日本文教出版を推薦させていただきます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

私は、日本文教出版の教科書がよいかないというふうに思いました。それは、や

っぱり印象として、子どもの自然な生の姿、笑顔、そういうものがとても印象に残っています。それから、実際の子どもたちの作品が多く掲載されているという印象を持ちました。

やっぱり、つくられたポーズとか笑顔ではなくて、実際に生き生きと作業している、そういうようなものから伝わってくるものというのは大きいかなというふうに思います。

また、教科書の裏表紙に「みんなの図工ギャラリー」というものがあって、年代別に子どもたちの実際の作品が掲載されていることなどから、子どもたち自身が、「私も作ってみたい」というような意欲が喚起されるような工夫がされているかなというふうに感じました。

また、同じその裏表紙には「つながる図工」というものがあって、子どもの発達段階に合わせて、図画工作を通して、様々な立場の人々や社会集団と関わったり、つながったりするような事例とか写真が紹介されていることがよいなというふうに思ったところでございます。

では、皆さんから、ほかに何か御意見ありますでしょうか。

よろしいですか。では、ないようですので採決に入らせていただきます。

図画工作の教科用図書につきましては、2つの発行者から選ぶこととなります。

まず、開隆堂出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

日本文教出版がよいという方は挙手をお願いします。挙手4名。

全員の挙手が終わりました。開隆堂出版1名、日本文教出版4名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市立小学校、図画工作で使用する教科用図書は、日本文教出版のものと決定いたしました。

次に、家庭でございます。家庭については2者から発行されております。

今度は渡辺委員から順に、御意見ををお願いいたします。

○委員【渡辺正美】 両者共、学習の進め方を明示して、学習内容に沿って狙いと学習活動の流れがはっきり分かるように編成されています。また、学習活動での安全への配慮もなされているというふうに思います。

開隆堂は、5年・6年で学習単元が20あり、その中に「ほっとタイム」、掃除、地域での生活、生活と環境、循環など、生活に密着し、活用しやすい単元が多いなというふうに思いました。また、学習の流れに沿った説明が丁寧で、絵図や写真も分かりやすいと思いました。

特に、実習活動での見本写真などが、手順に沿って連続して示されており、学習活動時の助けになるなというふうに思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

続いて福田委員、お願いいたします。

○委員【福田雅宏】 どちらもステップ、安全マーク等の工夫があって見やすかった。実践の進め方等も分かりやすかったと思います。

単元が細かく分類されていたのは開隆堂だと私は思いました。食文化例も多く、

中でも巻末のまとめページは、特に左利きの人のための写真解説はよいと思いましたが、ただ、東京書籍さんも詳しいと。

参考になり、使う頻度の高さを考えると、私は東京書籍さんのほうがいいのかなと思えました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 私は開隆堂出版がいいと思えました。家庭というものは、ちょっとほかの学問とは違うというか、衣食住などに対する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようとする工夫、資質・能力を育成することが目的とされています。

その中で、やはり自ら自分の生活を振り返るということの中で、生活の中のプログラミングというページが設けられており、そのプログラミングという、家庭科の中に昔だったらそういう言葉はなかなかなかったのかなと思うのですが、自分の中でいろいろ組み立てていく、これから中学校に行くために、自分の生活をどう振り返るといいかなという、そういう課題を提示されているところに対して共感を覚えましたので、開隆堂出版を推薦させていただきます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では菅原委員、お願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は東京書籍の教科書がよいと思えました。家庭科を初めて学ぶ5年生の導入部分の流れがとても自然であると思えました。

まず家庭生活の振り返りをした後、家庭で自分ができることの第一歩として、お茶を入れることを学びます。その勉強の中で、コンロの使い方、食器の洗い方、片づけ方といった炊事の基礎や、お茶の種類なども学ぶという流れになっています。

また、各章のタイトルが、「一針に心を込めて」「朝食から健康な一日の生活を」「任せてね 今日食事」というふうに、家庭科を学ぶことによって、家族の一員として、具体的に家族に何ができるかを考え、家庭生活を主体的に、楽しく充実したものにしていくというメッセージを伝えていると思えます。

また、災害に備えるため、飯ごうでの炊飯を紹介したり、インターネットで買物する上の注意や消費者センターといった、現代に知っておくべきことにも触れており、以上から、私は東京書籍がよいと思えました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

私は両者の教科書を見させていただく中で、健康や安全、あるいは生活文化など、両者共、実生活に生かせるような技能あるいは知識などがより身につけやすいような工夫がされているのではないかなというふうに感じたところです。

その中で、開隆堂出版の教科書の「団らん」という部分についての取上げ方を、とても印象深く読ませていただきました。

開隆堂出版の教科書の中では、団らんというものを、くつろぐ、リラックスというくくりの中で表現しております。そして、「一緒にほっとタイム」という単

元名が示されています。

現代社会の中で、子どもも大人も精神的にかなり緊張して生活している様子がみられるのではないかなと感じている中で、家庭科の授業の中で、その団らんと
いう部分を「ほっとタイム」というような言葉、あるいはくつろぐ、リラックス
という言葉の中でそれを意識して学ぶ、こういうことは大変大きいものではない
かなというふうに感じておりました、そんなところから、開隆堂出版につきまし
て、いいのではないかなというふうに感じているところでございます。

ほかには何か御意見ありますでしょうか。

よろしいですか。では、ないようですので採決に入らせていただきます。

家庭の教科用図書につきましては、2つの発行者から選ぶことになります。

東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手2名。

開隆堂出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手3名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍2名、開隆堂出版3名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市立小学校、家庭で使用する教科用図書は、開隆堂
出版のものと決定いたしました。

では、引き続きまして保健でございます。保健については6者から発行されて
おります。

福田委員から順に御意見ををお願いいたします。

○委員【福田雅宏】 6者共、巻頭に進め方、学び方、使い方等があり、また
書き込むページが多く、また下段等を利用して豆知識、プチ、あと他教科との関
連もあり、工夫されているなど感じました。

大修館書店さんの「けがの手当て」は分かりやすいと思いましたが、東京書籍
さんの「けがの防止」の単元は、イラストが大きく分かりやすいと感じました。

中でも大日本図書の、ステップごとに書き込め、また巻頭の折り込みカード、
この利用はすばらしいなど感じました。授業も進めやすいのではないかと個人的
に思いましたので、大日本図書さんがよろしいかと思えます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 私はG a k k e nがいいと思います。日常を振り返り健
康課題を見いだすことができるように、写真やイラストとともに吹き出し形式で
「振り返ろう・予想しよう」という設定をされていて、子どもたちに自主的に日
常を振り返る姿勢を身につけさせる姿勢を感じました。

あとは、チェックリストが設けられており、自分のこととして、いろいろ発達、
発育を考えて、それで自分を工夫していこうという、自分で対策を考える、そう
いう工夫もされていると思えました。

また「保健の箱」というところに、様々な職業の専門家の考え方が掲載され、
それに関しても、それを知ることにより、自分で自分のことに差し替えて、自分
の健康を考えていく姿勢を学べる教材として工夫されていると感じましたので、
G a k k e nを推薦させていただきます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では菅原委員、お願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は、光文書院の教科書がよいと思いました。

体の成長、LGBTQ、薬物などデリケートなテーマは、その写真や文言が子どもの好奇心や不安感をいたずらにあおる危険があります。

例えば薬物に関しては、実物の写真とそれぞれの俗称が事細かに詳しく書かれているもの、写真も俗称もないものなど様々でしたが、光文書院は写真だけが示されており、また、体の成長についても、受け入れやすい図式化されたものが提示されていて、全般的に過不足のない、バランスの取れた教科書であると思いました。

また、今の子どもたちにとって身近な問題であるインターネット依存やゲーム行動症についても、飲酒や喫煙と同様の依存症の一種として紹介されていることが、他者と一線を画しているように思いました。

以上から、私は光文書院が最もよいと思いました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 各者共、発達段階に沿って、健康、生活、心や身体の発達、病気や感染症、またその予防など、生活上必要な事項が、それぞれの指導内容の狙いを明確にして展開されているというふうに思います。また、基礎的な学びの上で、今後の生活に生かすことを狙いとした編集にもなっていると思います。

この中でGakkenは、学習の狙いが明記されて、学習活動の流れが分かりやすく記載されていると思いました。

また、小学校中・高学年、そのぐらいになりますと、興味・関心が高く、重要で必要な性教育に関し、慎重に系統的に6ページにわたり取り扱っており、主にやさしい絵図を使って分かりやすく解説しているというふうに思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

私もGakkenの教科書がよろしいかなというふうに感じています。

1ページ目のところに、本時の時間の課題というものが明確に示されており、その後の学習の流れというものが、どの単位時間も一貫して示されているので、子どもが活動しやすいのではないかなというふうに感じたところです。

また、他学年や他教科とのつながりが分かりやすく示されており、見通しを持った学習内容と結びつけて学習を深めることができるのではないかなと感じたところでございます。

では、ほかに何か御意見ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。では、ないようですので採決に入らせていただきます。

保健の教科用図書につきましては、6つの発行者から選ぶこととなります。

まず、東京書籍がよいという方、挙手をお願いいたします。挙手なし。

大日本図書がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

大修館書店がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

文教社がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

光文書院がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

G a k k e n がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手3名。

全員の挙手が終わりました。大日本図書1名、光文書院1名、G a k k e n 3名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市立小学校、保健で使用する教科用図書は、G a k k e n のものと決定いたしました。

続きまして、英語でございませう。英語については6者から発行されております。

濱田委員から順に、御意見ををお願いいたします。

○委員【濱田光子】 東京書籍を推薦させていただきます。

特に感じたのは、国際理解を深めるといふか、大きな視野の中なのですが、6年生になるに当たって、いろいろ学んでいく中で、小学校生活を振り返りながら、日本が世界の中でどんなところ、どんな位置を示しているかなといふか、日本を意識させるような単元がついては、英語を学ぶことは伝達手段を学ぶことだけでなく、プラス海外の人たちとの生活の違い、考え方の違いも学べるんだよという観点も含まれた扱い方になっているのかなと感じました。

あとは、別冊のピクチャーディクショナリーという別冊が非常に分かりやすく、自ら辞書として調べる、いい教材だなということを感じました。

やはり単純な、基本的なことですが、4本の線が描かれていて、アルファベットの書き方を正確にするといふようなところの留意点が丁寧に書かれていることに対して、東京書籍を推薦させていただきます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では菅原委員、お願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は東京書籍、三省堂が甲乙つけ難く、よい教科書だと思いました。

特に東京書籍は、英語の文字と音とのつながりを重視していて、単語の始めの音、終わりの音、アクセントなどを意識させる課題と、それに対応する音声コードが頻繁に設置されていて、中学校以降の英語の読み書きの学習の基礎が身につくと思いました。

題材も、アフガニスタンで医療活動を行った中村哲さん、ゴッホの「タンギー爺さん」などが取り上げられ、月の名前の導入の教材も、一般的に見られる誕生日ではなく、世界各地の行事の紹介の中に月の名前を取り込むなど、英語を通して子どもの視野を広げる工夫が感じられました。

別冊のピクチャーディクショナリーも、中学以降も使えるレベルに詳しく分かりやすく充実しており、私は東京書籍が最もよいと思いました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 各者共、各学年8単元前後の単元で構成されており、学習の目当てを基にした指導内容が工夫されているといふふうに思います。また、文字の学習にも対応しております。

英単語に親しみ、理解しやすくするための言葉の辞典を、巻末から新たに別冊

で用意している教科書会社が多くなっているなというふうにも思いました。

東京書籍は、学習題材が自分のことから、地域のこと、日本のこと、世界のこと、地球のことと学びの視野を広めるような工夫もされていると思いました。また、学習の流れの説明が丁寧に行われており、絵図や写真が大きく見やすく、理解を助けるとも思いました。

辞書の英単語には絵もあり、索引や横見出しもあり、活用しやすいというふうにも思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では福田委員、お願いいたします。

○委員【福田雅宏】 全ての教科書に学びやすい工夫があったと思います。また、タブレットの活用も併せてよかったと思います。ネイティブの発音が聞けたのはすごく参考というか、勉強になりました。

それから、楽しみながらできる工夫、線を引っ張ってみたり、チェックしたりとかというのが見受けられて、特に東京書籍さんと教育出版さんと啓林館さんは書き込みできる部分が多いなと感じました。別冊資料、巻末資料も分かりやすいと思います。

個人的には、その中でも特に啓林館の巻末は豊富な資料があり、分かりやすいと私は感じましたので、啓林館さんがいいと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

英語という教科を通して、海外にも広く視野を広げて、将来活躍してくれる子どもたちが増えるといいなという思いとともに、伊勢原にも随分外国籍のお子さんが入ってきておりますので、そういうお子さんたちが教科書を見る中で、自分のアイデンティティーを確認し、確立していくことも大事な、なんて思っています。伊勢原に来るお子さんたち、現在はベトナム籍やフィリピン籍のおさんが割と多いんですけども、そういうものの記述が各者どういうふうになっているかなと見たところ、あまり実は、ベトナムは若干ありましたけど、フィリピンはほとんどなくて、そこのところはとても残念に思ったところです。逆に言うと、あまりそこでは差がつかないなというふうにも思いました。

いずれにしても、英語の教科書というものについては、英語が身近な題材、映像とか音声とか、そういうものから興味を持ちやすく、その後のコミュニケーションをする意欲に結びつくようなものがよいのではないかなというふうにも感じているところですけども、そういう意味で、東京書籍の教科書がバランスが取れていて、学習しやすいつくりになっているのではないかなというふうにも感じました。

また、三省堂についてはシンプルなつくりになっているので、使いやすいのではないかなというふうにも思いました。

もう一つ、先ほども他の委員から話がありましたが、別冊については、何者か今回用意していただいていますけれども、東京書籍のマイピクチャーディクショナリーですが、その中身の配列の仕方を見てみると、小学生が使って、その後の

中学生生活、そして今後、社会に出ていったときをイメージした配列になっているのかなというふうに思っていて、そういう意味でも、便利に使えるのではないかな。いろいろある別冊の中でも、東京書籍さんのマイピクチャーディクショナリーは使いやすいのではないかなというふうに思いました。

そんなことから、私は東京書籍の教科書がよいかと感じているところでございます。

ほかに何か御意見ございますでしょうか。

よろしいですか。では、ないようですので採決に入らせていただきたいと思います。

英語の教科用図書につきましては、6つの発行者から選ぶことになります。

東京書籍がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手4名。

開隆堂出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

三省堂がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

新興出版社啓林館がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

全員の挙手が終わりました。東京書籍4名、新興出版社啓林館1名でございます。

よって、令和6年度伊勢原市小学校、英語で使用する教科用図書は、東京書籍のものと決定いたしました。

引き続きまして道徳でございますが、6者から発行されております。

菅原委員から順に御意見をお願いいたします。

○委員【菅原順子】 私は、光文書院の教科書がよいと思いました。

各者とも教材名の前後にテーマ、問いかけが短く掲げられ、本文の後に思考を深める手引きがあります。

光文書院の教科書は、テーマ、問いかけが過不足なく、つまり押しつけがましくなく、かといって抽象的過ぎてテーマがぼんやりしてしまうこともなく、分かりやすく提示されていて、目指す道徳的価値について、子どもが問題意識を持って取り組みやすいのではないかと思いました。

末尾の手引も、「考えよう」「まとめよう」「広げよう」の順に丁寧に設定されていて、なぜ、何のため、という問いかけに、自分で、あるいは他者と共に向き合うことによって、徐々に段階を追って自分事に引きつけて考えられるようになっていきたいと思います。

以上から、私は光文書院の教科書が最もよいと思いました。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

渡辺委員、お願いいたします。

○委員【渡辺正美】 道徳に関して、いわゆる道徳の教科化ということで、道徳が教科になったという中で、新たに先生方が考えなきゃいけない、考えながら授業を進めなきゃいけないということの中に、まず、議論をしていくんだと。子どもたちが議論する、考えた後、考え方を子ども同士で議論して考えを深めてい

くということが新たに加わった。さらに、評価するんだということですね。

それぞれ、45分の授業の中で、今言ったようなことが新たに加わっているんだというのが、現在の道徳の、私は大前提だろうと思っています。

そうしますと、通例あります道徳の授業などは、一つの題材を子どもたちが読みます。そして、今言ったような、読んだ後、理解をして、考えをまとめて、議論して、そしてさらにまとめていく。これを45分で行っていくということは大変なこと、大変時間がかかることというか、45分の中で収めるということは大変なことだろうと思います。

もう一つ前提となるのは、道徳の授業では、その文章が、そこに書かれていることが、様々な理解力に、どうしても子どもたちの中には、一回読めばさっと分かる子もいれば、なかなか、先生からちゃんと解説をしてもらって、もう一回考えて、ああそうかというふうに気づくような子どもたちもいるというのが教室の実態だろうと思います。

そんな中で私は、読む力や理解する力は子どもたちには差があるということも前提にして、道徳の授業のことを考えていかなきゃいけないなというふうに思いました。

それで、全ての教科書、2年・4年・5年・6年の教科書を全部調べさせてもらいました。そして、行数が低学年は13行、14行ぐらいの文章で進んでいるとか、高学年になると18行、19行ぐらいで進んでいるとか、そういうことも含めて、そしてどのぐらいかかるかも、何ページぐらいだとどうだろうというふうに読んでみました。

そんな中で、私があまりつかえずに、もちろん声を出して読んでみたりなんかすると、どうしても4ページ以上ある教科書は、これは時間が10分では収まり切らないだろうというふうに想定できました。

特に、4ページ以下の文章で6年生の資料だけをここでは数値的に申しますと、光文書院は98%が4ページ以下でした。6年生ですよ。日文は86%。Gakkenは74%でした。逆に光村は41%。4ページ以下は41%しかありませんでした。東書は60%でした。教育出版は63%でした。

これが実態で、実際に6年生の文章で非常に長い文章が教材として扱われている会社が結構あるというのが、私が調べてみたらそのようでした。

それからもう一つは、この教科書を使っていく中で、発展的な内容が、もちろん教科書の最後に、いろいろな考える視点などは、全ての教科書が用意されているのですが、さらにそこから、こんなことも考えてみよう、あんなことも考えてみようとか、それから別なこんなこともやってみましょう、のような発展的な内容を含んでいる教科書もいくつもございました。

あくまでもこの教科書は45分の授業の中で扱うものだという前提で考えると、発展的な内容がどのくらいあるかを比較しますと、光文は3でした。教育出版は5でした。Gakkenは11ありました。これも6年生だけです。全部ほかの学年も調べましたけど、今ここで話しているのは6年生だけです。

それから東書は12でした。光村は13ありました。日文は12、さらに別冊

が用意されていて、そこにも別学習の指示などもございました。

こんなふうに考えると、45分の中で子どもたちが理解して、それぞれの道徳的な考えを整理したり、発表し合って道徳の授業を終えていくという中で、無理なく進められるのは、やはり光文は教材、資料も適切で、シンプルであるのかなというふうに思いました。

以上です。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では福田委員、お願いいたします。

○委員【福田雅宏】 全ての教科書の巻頭で使い方、学び方があり、特に光文書院は詳しいと感じました。

また各者、ページの左右でヒントにつながることで、例えば左側に「考えよう、話し合おう」等の工夫があり、巻末には一覧表があり、特に東京書籍と日本文教出版さんはその一覧表が詳しいなと感じました。

また、日本文教出版さんは、各学年に1冊、別冊ノートがあつて、書き込むことで、これで学習がより児童の中に残りやすいものになるんじゃないかなと私は個人的に思いますので、私は日本文教出版さんがよいかと思います。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

では濱田委員、お願いいたします。

○委員【濱田光子】 どの出版社さんも、インターネット上のいろいろな情報の権利とか、情報モラルということに対して取り上げてきている時代だということに改めて感じました。

ただ、情報のモラルのほかにはやはり心の問題、情報の伝え方の前のというか、いじめとか、今話題のSDGsの持続可能な発展とか、いろいろな大きな課題が日常生活の中にあることを低学年から課題として取り上げて、人と暮らしていく中で学ばなければいけない、守らなければいけないことに関して、課題を与えながら、あとは漫画形式を使いながら、写真・絵を効果的に使いながら、子どもたちに自ら考えさせて、それで話し合いをするような提案の仕方をしている光文書院を推薦いたします。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

私は、将来を生きていく子どもたちにつきましては、まず一つは、他者との良好な関係が築ける、そういう力をつけてほしい。そして、何よりも自己肯定感をちゃんと持って、胸を張って生きていけるような、そういうような大人に育ててほしいなど、常々思っているところです。こういう観点から、各発行者の教科書を拝見いたしました。

その中で、光文書院さんの教科書の中に「みんなでやってみよう」、あるいは「へこんでも立ち直る」、こういうコラムが全学年の教科書で設定されていました。

その中身は、実際に身近で起きそうな場面を取り上げた中でのコラムになっていますが、そういう中で、友達との関係づくりとか、あるいは、しなやかで強い心をつくる、そういうものに結びつくよい教材だなというふうに思いましたし、

ほかの部分でも、これらのことが意識されていると感じる部分はかなり多くございました。

また、同じ光文書院の教科書につきましては、1時間分の単元が全てシンプルに4ページに収まっていて、これは教員にとっては自由度があつて、また、子どもたちにとっては学習が進めやすいのではないかなというふう感じたところがありますので、私は光文書院の教科書がよいのではないかなと感じているところでございます。

ほかに何か御意見ありますでしょうか。

よろしいですか。では、ないようですので採決に入らせていただきます。

道徳の教科用図書につきましては、6つの発行者から選ぶことになります。

東京書籍がよいと思う方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

教育出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

光村図書出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手なし。

日本文教出版がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手1名。

光文書院がよいという方は挙手をお願いいたします。挙手4名。

ここで全員の挙手が終わりました。日本文教出版1名、光文書院4名でございました。

よって、令和6年度伊勢原市立小学校、道徳で使用する教科用図書は、光文書院のものと決定いたしました。

以上をもちまして、日程第4、議案第31号、令和6年度伊勢原市立小学校使用教科用図書の採択についての審議を終了いたします。

----- ○ -----

日程第5 議案第32号 令和6年度伊勢原市立中学校使用教科用図書の採択について

○教育長【山口賢人】 では、時間が随分長くなりましたが、続いて日程第5、議案第32号「令和6年度伊勢原市立中学校使用教科用図書の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【櫻井綾子】 議案書の37ページを御覧ください。

議案第32号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条、同法施行令第15条の規定に基づく令和6年度伊勢原市立中学校において使用する教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

提案理由といたしましては、令和6年度伊勢原市立中学校において使用する教科用図書を採択する必要があるためでございます。

今年度は、令和2年度に採択した教科書及び発行者について、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第19条による教科用図書発行者指定の取

消しに該当する事柄がありませんでしたので、昨年度と同一の教科書を採択するという前提で提案いたすものでございます。

なお、本採択につきましては、文部科学大臣から送付される目録に登載された教科用図書のうちから採択することとなっております。

40ページ以降に中学校用教科書目録、39ページに現在伊勢原市の中学校で使用している教科用図書の一覧を掲載しております。よろしく御審議をお願いいたします。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

ただいまの提案説明について、御意見、御質問などございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

では、特にないようですので採決に入らせていただきます。

日程第5、議案第32号「令和6年度伊勢原市立中学校使用教科用図書の採択について」ですが、今、提案説明にございましたように、現在使用している教科用図書と同一の発行者の教科用図書を採択するという事でよろしいかどうかということでございます。賛成の方は挙手をお願いいたします。

○教育長及び委員全員 挙手。

○教育長【山口賢人】 挙手全員。よって本案は、現在使用している発行者の教科用図書を引き続き採択するという事で決定いたしました。

----- ○ -----

日程第6 議案第33号 令和6年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について

○教育長【山口賢人】 続いて日程第6、議案第33号「令和6年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について」、提案説明をお願いします。

○学校教育担当部長【櫻井綾子】 議案書の48ページになります。

議案第33号につきましては、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条、並びに学校教育法附則第9条の規定に基づく、令和6年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について、伊勢原市教育委員会教育長に対する事務委任等に関する規則第2条第1項第10号の規定により提案するものです。

提案理由といたしましては、令和6年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書を採択する必要があるためでございます。

49ページから53ページに掲載しております令和6年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書一覧は、各学校において、特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人の力を伸ばすために、教科用図書に代わるもの

としてより適切な一般図書、及び文部科学省著作教科書を選定し、その報告を受け作成したものです。

つきましては、一覧にあるとおり採択することを提案いたすものでございます。説明は以上でございます。

○教育長【山口賢人】 ただいまの提案説明について、御意見や御質問などございましたらお願いいたします。

ありませんか。

特にないようですので、採決に入らせていただきます。

日程第6、議案第33号「令和6年度伊勢原市立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択について」、賛成の方は挙手をお願いいたします。

○教育長及び委員全員 挙手。

○教育長【山口賢人】 挙手全員。よって本案は原案のとおり決定いたしました。

----- ○ -----

その他

○教育長【山口賢人】 続きまして、その他でございますが、委員の皆さんから何かございますでしょうか。よろしいですか。

事務局からは何かありますか。

ないようですので、最後に来月の定例会の日程をお願いします。

○参事（兼）教育総務課長【熊澤信一】 次回の定例会につきましては、8月22日、火曜日の午前9時30分から、会場は市役所3階議会第2委員会室におきまして開催をいたします。どうぞよろしくをお願いいたします。

以上でございます。

○教育長【山口賢人】 ありがとうございます。

長くなりましたが、それでは、本日の教育委員会議定例会はこれをもって閉会とさせていただきます。

----- ○ -----

午前11時44分 閉会